

牛丼が牛海綿状脳症(BSE)懸念で消えて、鳥インフルエンザが日本に広がる。年間百六十万件に上る輸入食品の約九割がチエックなしに流通していると思われる。世界一の農林水産物の輸入国である日本の問題は広く深い。現在、日本の食料自給率はわずか40



％。G7諸国のなかで最低だ。米仏加は100％を超え、独(99)英(61)伊(69)も日本を大きく上回る。一九七三年に米國がいぎなり大豆の輸出をストップして以来、欧州諸國は、外国依存は危険だとして食料自給率を大幅に引き上げた。日本だけは当時の60％から大きく下れた。

## 食料輸入大国から変身するとき

いまは農林水産物の貿易赤字は年間七兆円、貿易黒字全体(十兆円)に迫る。ものつくりで稼いだ金で食糧を買っている構図だ。だから、将来貿易赤字が減れば食糧の輸入にプレ

キがかかる。いま大企業を中心に中国に生産を移す動きが盛んだが、これから

理由はさまざまだが先相代々の農地が使われずに荒れ

いなくともある。だから、農家の大半で農業は副業

者をつなぐさまざまなサービス分野での革新だ。顧客

# サービス分野の革新で活路を

貿易赤字が減っていくというところだ。少子高齢化で働く人が減ると貿易赤字を減らす。日本も食料自給率を高めるべきで国全体で真剣に考えるべきがきた。

食料自給率が低いのは単に国土が狭いからではない。約五十年前に比べて農地の延べ耕作面積はなんと半分だ。減反債からなら

豊かに取れた。逆に、都市から出たものが農家に引き取られた。最も進んだ循環型・共生型社会であった。

世界の古代文明は砂漠になつて滅びたが、日本は山・田畑・川・海を守つて文明であり続けた。それがいま失われつつある。

農業衰退の最大の原因は、産業として成り立って

農業自体の強化や自然環境保全、食品の安全などには十分使われていない。

日本には国内農業が進展する条件がそろっている。

米だけなら三兆円産額だが食全体では約百兆円の巨大市場だ。この巨大市場を国内農業と結びつける力が

国内農業がもつた恩恵も何でもない。ITが発達し、何でもすぐに届けられる。

重要なのは、消費者と生産

山崎 養世

